

日本人学校の紹介 (保護者・元保護者・卒業生の声もお届けします)

在チリ共和国日本国大使館附属

サンチャゴ日本人学校



校章 (白雪映えるアンデスの山並みと紅のコピウエ)

1 学校の概要

- ① 学校名 サンチャゴ日本人学校
Instituto de Enseñanza Japonesa
- ② 学校所在地 La Dehesa 1340, Lo Barnechea, Santiago Chile
TEL 378-5499 FAX 378-5499
E-mail: iej@entelchile.net
- ③ 設置者 日本文化教育財団
Fundacion Cultural y Educacional Japonesa
- ④ 設立年月日 1982年(昭和57年)4月20日
- ⑤ 設立の目的 サンチャゴ市内に在留する邦人子女のために、日本の小学校及び中学校と同等の内容の授業を行うことを目的とする。

2 本校の教育目標

確かな学力と豊かな心、健やかな体をもった子どもの育成

本校のスローガン

明るく、やさしく、たくましく

- ・ さんさんと輝く太陽のように明るい子
- ・ チャンスを生かし共に生きるやさしい子
- ・ ゴールを目ざし頑張るたくましい子

3 経営方針

- ・ 子どもが、行きたくなる学校
- ・ 保護者が、行かせたくなる学校
- ・ 職員も、行きたくなる学校

- ① 確かな学力をはぐくむ学習指導を展開する。
- ② 豊かな心をはぐくむ教育活動を推進する。
- ③ 健やかな体をはぐくむ指導を充実させる。
- ④ 国際人としての資質をはぐくむ教育活動を推進する。
- ⑤ 保護者や理事との連携を密にする。



下校風景

4 在籍児童生徒数

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
人数	8	5	4	4	7	6	1	2	0	37

(平成22年1月25日現在)

5 保護者負担経費等

入 学 金	財団の会員	250	USD
	非会員	400	USD
学 債		500	USD
授 業 料 (月額)		13.7	UF
ス ク ー ル バ ス (月額)		3.6	UF
P T A 会 費 (月額)		3,000	PESOS

(平成22年1月現在)

※ UFはインフレ連動通貨単位で、
2009年12月現在、1UF=約21,000ペソ



全面芝生の運動場

6 本校の一日

① スクールバスで登校

現在3台のバスが運行しています。学校着は8時05分頃です。全教員があいさつとハイタッチで子ども達を迎えます。

バスの運行範囲は次の通りです。



東側 Las Lavandulas – Camino del Algarrobo – Vital Apoquindo
南側 Av.Cristobal Colon – Av.Tobaraba – Av.Pocuro
西側 Av.Los Leones – Av.Vitacura – Av.Nueva Costanera
北側 Av.Monsenor Escriva de Balaguer – Av.Calolina Ravat – Rayen –
Av.Luis Pasteur – Av.Santa Maria



② さわやかタイム

始業前のさわやかタイムでは、縄跳び、鉄棒、ランニング、ボール投げなどで体を動かしています。

③ わかる・できる・楽しい授業

日本の学習指導要領に従い、日本の教科書を使って、日本の学校と同等の内容の授業を行います。文部科学省から派遣された

9名の教員が、少人数を生かしたきめ細かな指導をします。体育、音楽、技術家庭の授業は、2学年合同で行います。

④ 英会話の授業

小学部3年から中学部までは、英会話の授業が週2時間あります。ネイティブスピーカーが学年毎にすべての時間、英語の教員とともに指導します。

⑤ スペイン語の授業

小学部1年～6年は週2時間、中学部は週1時間、スペイン語の授業があります。習熟度別にクラス編成して、3名のチリ人が指導します。



英会話の授業



⑥ 弁当

給食はありませんので、毎日各自弁当を持参します。



⑦ 個人発表

小学部3年から中学部まで、年3回の個人発表があります。人前でも堂々と発表する力がつきます。

⑧ 校時程と下校時刻

次の表のような校時程で学校生活をします。

校 時	月・火・木・金	水
さわやかタイム	登校後 ~ 8:20	全校朝会 8:20~
朝の会	8:25 ~ 8:35	
読書タイム	8:35 ~ 8:45	
1校時	8:45 ~ 9:30	
2校時	9:40 ~ 10:25	
3校時	10:45 ~ 11:30	
4校時	11:40 ~ 12:25	
昼休み	12:25 ~ 13:10	
5校時	13:10 ~ 13:55	
6校時	14:05 ~ 14:50	
清掃	14:50 ~ 15:05	
学級帰りの会	15:05 ~ 15:15	
1・2年生下校	15:25	
7校時	15:15 ~ 16:00	
全校帰りの会	16:05	15:25
児童生徒下校	16:15	15:35

7 楽しい学校行事

5月 こどもの日集会

「なぞなぞこいのぼりレース」や「こいのぼり取りレース」など、5・6年生が楽しいゲームを企画します。



6月 スポーツ集会

「大縄跳び」や「綱引き」など、運動委員会が企画した競技で汗を流します。

6月 陸上記録会

陸上競技場(400mトラック)を借りて、短距離走、長距離走、走り(立ち)幅跳び、ボール投げ、走り高跳びをします。



7月 七夕集会

「天の川をわたれゲーム」「七夕のペープサートによる話」など、小学部3・4年生が企画したゲームの後で短冊を笹に飾ります。

7月 もちつき大会

終業式の後、保護者も参加してもちつきをします。日本の味がするつきたてのもちをお腹いっぱい食べます。





7月 PTAエンジョイ・スノー

冬季休業中にPTA主催の、エンジョイ・スノーがあります。エル・コロラドスキー場でスキーを楽しみます。

8月 平和を考える集会

広島・長崎の原子爆弾や沖縄戦についての発表などを中学部が企画し、平和について考えます。



8月 スキー教室

全校児童生徒をグループ分けし、スキーの指導をします。アンデスの雄大な自然の中で思いっきりスキーを楽しみます。

9月 学習発表会

学年ごと、または2学年合同で劇や合唱を行い、小学部3年生以上による器楽合奏や全校合唱をします。昔ながらの学芸会です。



9月 ディエシ・オチョ祭り

児童生徒がスペイン語劇の発表した後、民族衣装に着替えクエッカを踊ります。その後で、おいしいアンティ・クーチョやエンパナーダも食べます。

11月 運動会

芝生のグラウンドで、短距離走、リレー、親子競技、2学年合同の演技、全校サンチャゴソーラン、応援合戦など、熱戦を繰り広げます。



1月 百人一首大会

少人数のグループに分かれてトーナメント戦をします。団体戦と個人戦の表彰があります。日本文化に親しむ時間です。



1月 サマーキャンプ

小学部1年生から4年生までは校庭で、小学部5年生から中学部は学校外のキャンプ場で、テントを張り1泊2日のキャンプをします。



2月 水泳教室

学校の近くにある室内プールを借りて、全校児童生徒が6日間(午後)水泳の授業をします。

2月 ひな祭り集会

「ひな祭りについての発表」「ひな人形さがしゲーム」など、小学部1・2年生が企画します。





チリの学校との交流会

チリの現地校3校と交流をしています。スポーツ交流と、授業などの文化交流があります。チリの文化を知る機会となります。

講演会

いろいろな分野の講師をお迎えして、随時、講演会を開催しています。



英語で遊ぼう

2009年度の冬休みと夏休みに、英語活動「英語で遊ぼう」を4日間ずつ（1日2時間）行いました。今年度が初めての試みです。今後も続けていく予定です。

和太鼓クラブ

2009年度から和太鼓クラブの活動を始めました。年末親睦会などでも披露する機会をいただき好評を博しました。



8 保護者の声

日本語で国語をしっかりと教えていただいて安心しました……

チリで3年間生活するにあたり悩んだのが、子供たちの通う学校をどこにするのかということでした。日本人学校か、それともインターナショナルスクールか。チリに着いてからも迷っていましたが、とりあえず日本人学校へ行かせて、様子を見ることにしました。ただ、お恥ずかしいことに、チリでの生活は、「言葉の壁」や「生活様式の違い」などか

ら何をするにも時間がかかり、1年目は子供たちの様子を落ち着いて見ていなかったように思います。しかしながら、その間も子供たちは、日本人学校で、日本にいるかのような環境のもと、授業をうけたり友達と遊んだりして、のびのびと過ごしていました。

2年目にはいると、日本人学校での様子を少しずつ落ち着いて見ることができるようになってきて、やはり、安心できたのは、日本語で国語をしっかり教えていただいていたことです。

特に下の子に関しては、日本で国語の勉強をする前（小学校1年生になる3月）に、サンチャゴに来たため、基礎ができていなく心配でしたが、日本以上にじっくりと繰り返し教えていただいているので、基礎はほとんどしっかり身につけているようです。

また、3年生より個人発表（全校生徒の前で、自分が調べてきたことを発表するというもの）が始まり、上の子も下の子も緊張はするようですが、興味のあるものをパソコンなどを利用して調べ、まとめ、子供なりに工夫を加えて、皆の前で発表しているようです。これも、繰り返し行うことによって、緊張の度合いが減り、調べる力やまとめる力が向上していくのかもしれませんが。

その他、この日本人学校ならではのものがいくつかありますが、その中で個人的に気に入っているのが、「水泳教室」です。昨年度は、学校近くの水泳教室のプールをお借りして、2月に6日間おこなわれました。上の子は、「長時間泳ぐので体力的にきついよ〜。」とは言っていたものの、タイムはしっかり意識して泳いでいました。一昨年よりもさらにフォームが良くなり、泳力がのびたようです。下の子は、クロールを習っていなかったのですが、こちらで教えていただき38メートル泳げるようになりました。

チリにも海があり泳ごうと思えば泳げますが、フンボルト海流の影響で、夏でも水温が低く、とても長時間入っていることはできません。そのような環境のもと、夏にプールで6日間みっちり泳ぐ機会を与えていただき、とてもうれしく、感謝しています。

高校からインターナショナルスクールに入れるのは難しいというけれど…

小学生でチリに来た長女には最初から日本人学校に通わせようと決めていました。経験豊かな教育アドバイザーに小学生のうちは日本語をしっかり身につけることを強くお勧め頂いたからです。

一方、高校1年生でチリに来た長男は学校探しが本当に大変でしたが、結局、英国系のインターナショナルスクールに問題なく入学できました。

現在小学生の長女は先生やお友達に恵まれて、伸び伸びと学校生活を楽しんでいますが、高校のインターナショナルスクール探しでの心配がなくなりましたので、中学部でもこのまま日本人学校でお世話になりたいと思っています。

確かに米国系のインターナショナルスクールは英語力がないと入学できませんが、英国系のインターナショナルスクールでは入学に際しての英語力は然程重要視しない上、日本の大学入学資格として認められているG C E (General Certificate of Education)やG C S E (General Certificate of Secondary Education)が取得できます(飽くまで試験にパスする前提ですが)。

高校進学でのインターナショナルスクール探しが大変だという理由で日本人学校に通わせることを躊躇している方へ、私たちの経験がお役に立てればと思います。

先生方が生徒達をよく理解して指導して下さるので安心です……

子供たちを日本人学校に通わせて頂き、大変満足しております。

学校の特徴として、挙げられるのはまず少人数だということですが、少人数であるため先生方が生徒たちをよく理解して指導して下さるので安心です。大きな行事ではもう少し人数がいれば、と思う場面もありますが、その分一人一人が活躍する場が十分にあり、子供たちが全力で学校の行事、活動に取り組んでいます。

学校での子供たちの様子を見ることが出来る機会もたくさんあり、子供たちががんばっている分、見ごたえがあり、いつも楽しみにしています。

少人数教育で先生方のきめ細かい指導が受けられる……

サンチャゴ日本人学校の良さは、少人数教育で先生方のきめ細かい指導が受けられる中、広い敷地の中で子供達が伸び伸びと学習出来る機会が与えられている事です。こうした環境下、一人一人が毎日嬉々として通学しているのは素晴らしい事だと思います。

しかし、何よりサンチャゴ日本人学校では、日本と同じ教育カリキュラムを実践しながら、一方でチリの文化や自然と関わって行く姿勢が平素から保たれているので、子供達が、日本の教育を受けながら、同時に別の文化を体験する機会を与えられている事が大きいと思います。子供の頃からの体験の量が多ければ自信にも繋がり、そうした自信は、ひいては学業やスポーツの向上の為の原動力にも変わって行くものと思います。

こうした教育の上での好循環を望める事が、サンチャゴ日本人学校の最大の利点ではないかと考えています。

9 元保護者の声

子供達をサンチャゴ日本人学校にやって大正解でした……

結果としてチリでの家族帯同の赴任生活は、すでに十数年に及んでいます。

子供は3人で、男、女、男の3人兄弟、3人とも日本人学校のお世話になりました。

さて、3人の子供の教育は多くの父兄の方と同様で、自分の赴任生活がどうなるかによって計画を立てる必要がありました。長男が小学校に上がるまでは数年あったので、その間に以下4つの目標を元に方向性を決めました。

第一に、日本人として育てて欲しいということ。

第二に、楽しいチリでの生活を送って欲しいということ。

第三に、一生付き合える友人、そして、世界中に友人をつくって欲しいということ。

第四に、せつかく外国にいるのだから、外国語をある程度使いこなせるようになって欲しいということ。

特に、第一と第二については、以下の理由によって強い思い入れがありました。

第一については、アメリカと南米に住んでいるそれぞれの日本人の友人が、現地校に子供を通わせていたら子供がまともに日本語が喋れなくなって困っているということでした。どんなに、英語やスペイン語がネイティブのように喋れても、日本語が満足に喋れなく、尚且つ、読み書きがまともに出来なければ、将来日本で生活する時になった場合、変な日本人になってしまうのではないかと心配があったからです。

第二については、突然、言葉が分からなく、習慣の違う現地校やインターナショナル校に入学させた場合、学校が合わなくて、チリでの生活が嫌にならないかと心配だったためです。

3人の子供達には、まずは日本語がまともに出来るようになるため、中学2年生くらいまで日本人学校にやりたかったのですが、英語がかなり出来ないとインターナショナル校には入れないという現実があり、英語が出来なくても入学可能な小学校6年生の途中で転校させました。しかし、小学校高学年まで日本人学校で学んだおかげで、日本語の読み書きなどの勉強の基礎がある程度出来たので、本当に日本人学校に行かせていて良かったと思っています。転校した後も少しは、漢字検定など受けることにより日本語の勉強は続けさせました。

そして、日本人学校に行っていたおかげで、転校になってからも遊べる友達がいたので、子供達の精神的支えになったのではないかと考えています。

それと、日本人学校は、少人数であり、授業で子供が集中しやすい環境もあり、尚且つ、教えてくださる日本から派遣されている先生方も選抜されて来られるため優秀な方が多く、勉強をはじめとする子供達の育成に十分役立ったと思います。本当に感謝しています。

結論として、子供達をサンチャゴ日本人学校にやって大正解でした。

自らの置かれた立場を自覚し、だんだん積極的に変わっていった……

我が家は長女が小学5年の半ばから中学3年卒業まで、長男が小学1年入学から小学4年終了まで、約4年半日本人学校にお世話になりました。

着任時に周りの方からはインターナショナルスクールを勧められましたが、最終的に日本人学校を選んだ理由の一つは、学校訪問時に子供たちが廊下ですれ違うたびに「こんにちは！」と元気に挨拶をする姿を見て好印象を持ったからです。

この「見知らぬ大人の人にも自然に挨拶をする」という態度は、日本人学校の特徴をよく示していると思います。少人数教育ゆえに、子供たち、先生方、保護者の距離が非常に近く、一人一人の顔がお互い見えており、子供たちからすればお友達の親に挨拶をするというのは、近所のおじさん、おばさんに挨拶する感覚なのだと思います。

保護者の方も近所の子供たちに接するように、自分の子だけでなく他所の子のこともよく知っているし面倒もみます。ある意味、田舎社会的な点があり、子供たちを地域社会の財産として皆で育てていくという意識を皆が持っていると感じました。

日本人学校を選んだもう一つの理由は国語教育です。インターナショナルスクールで英語がペラペラになれば、将来自分のように英語で苦労しなくなるのではないかと考える一方で、文章力が一番伸びる時期に、英語の負担が急増することで、日本語も英語もスペイ

ン語も中途半端になるのではということが心配されました。特に、長女は作文が好きでしたので、せっかく得意な国語を伸ばす機会を奪ってしまうことを懸念しました。

学校を選んだ時点では考えていませんでしたが、あとから日本人学校を選んで良かったと思ったのは、一人一人が活躍する機会が多いという点です。特に高学年になると、運動会のキャプテンや委員会活動をはじめ、リーダーとして低・中学年を引っ張っていくことが求められます。運動会の競技出場や学習発表会での演技なども、日本の学校に比べれば一人一人の役割は重大です。誰かがやってくれるからいいや、と大勢の中に埋没することは許されません。長女は日本にいた頃は消極的で他人についていくタイプだったのですが、日本人学校に入り、自らの置かれた立場を自覚し、だんだん積極的に変わっていったのが印象的でした。

個人発表も、自分の考えをまとめて皆の前で発表する場として、本人の成長に非常に役立ったと思います。最初の頃は親が手伝っていましたが、いつの間にかアイデアから構成まで自分で考え、時には笑いを狙ったりし、楽しくこなしていたようです。

この数年間で、中学部の人数が急減してしまったのは大変残念です。長女もさすがに中2、中3の時はもっと同級生が大勢いればなあとよくこぼしていました。

子供の数自体が減ってきていることが主因だと思いますが、相対的にインターナショナルスクールに入れる方が増えてきたこともあるようです。その背景には、派遣の方の年齢や家族構成、任期など偶然の要素が大きいのではと推察しています。日本人学校で中学を過ごした場合、高校からインターナショナルスクールに入れるのは難しく、通常、帰国させることを考えなければなりません。我が家の場合、任期は長くて5年程度と予想していたため、最初から高校は日本に帰国して進学と考えていましたが、着任時の子供の年齢や任期によっては、インターナショナルスクールに入れざるを得ないケースも多いと思います。

ただ一旦生徒数が減少してしまうと、生徒数が少ないという理由で日本人学校を敬遠するという悪循環に陥ってしまいます。

チリで高校まで残る必要がないのであれば、是非一度、日本人学校もご検討ください。子供たちにとって、きっと良い思い出の場となることをお約束します。

10 教員の声

ネイティブ講師から生きた英語を学ぶ、理想的な授業が行われている……

サンチャゴ日本人学校に着任して早半年。日々、このすばらしい教育環境で働ける幸せをかみしめている。昨年度、私は自らの国際感覚を磨くため、あるいは日本を離れて学ぶ子どもたちに日本と同様の教育を、という使命感に駆られ、日本人学校派遣教員に志願した。あっという間の半年ではあったが、このサンチャゴ日本人学校の教育には胸を張れるものがある。日本の中学を10数年経験した私から見ても、知育、徳育の育成に関して、これほど恵まれた環境もそうそうないのではないだろうか。

日本の40人規模の一斉授業とは違い、一人一人の児童生徒に合わせた綿密な授業が可能になる。補充的な学習に追われがちな日本のそれと違い、補充学習はもちろんのこと、

さらなる発展的な授業内容にまで踏み込むこともできる。少人数授業が生み出す教師と生徒の良好なコミュニケーションは何とも心地がよい。

英語科の教師として特筆すべきことは、小学校3年生から始まる週2回の英会話授業である。ネイティブ講師から生きた英語を学ぶ絶好の機会であり、スペイン語授業と同様、コミュニケーション中心の理想的な授業が行われている。児童生徒の多くは英語を聞き分ける良い「耳」を鍛えることができている。また堂々と自分の意見を英語で発信する機会にも恵まれている。日本の一斉授業ではとうてい不可能な授業形態である。確固とした日本語学習の上に基づくスペイン語会話、英会話の授業は、将来、日本を背負って立つ児童生徒にとっても、大変有意義な授業であろう。子どもたちの多くも心待ちにしている授業の一つである。

授業以外にも、日本人学校だからこそ体験できる多くの教育実践がある。学習発表会、運動会、サマーキャンプなどの各種行事は、リーダーシップの育成や規範意識の育成に大きな役割を果たしている。また、これらの行事は学年の垣根を越えて行われるため、人間関係スキルの形成などに果たす役割も大きい。

私にとって、ここでの生活はまだまだ始まったばかりだが、このすばらしいサンチャゴ日本人学校の名に恥じぬよう、精一杯の努力をする所存である。今後も、この学校がさらなる発展を続けることを願ってやまない。

児童・生徒が何事にも意欲的であることにびっくりしました……

サンチャゴ日本人学校に赴任して、素晴らしいなと感じるところがいくつもあります。どれも他の学校では中々経験できないようなものばかりです。

その中の一つを紹介したいと思います。

それは、児童・生徒が何事にも意欲的であることです。

朝、バスから降りてくる子どもたちの挨拶の声、授業中に学習に取り組む姿勢、行事や委員会の仕事を頑張ろうとする気持ち、何事も、何事にもやる気に溢れているのです。それも何人かではありません。全員がそうなのです。初めはとてびっくりしました。

「なぜ、この子どもたちはこんなに意欲的なのだろう。」

しかし、次第にその理由がわかってきました。

それは、今までの先輩や「サンチャゴ日本人学校」が作ってきた伝統なのでしょう。楽しい授業、心から優しい友達、そして大好きな学校。そういう環境の中で育った子どもたちは、更に更に意欲的になっていくのです。これは、一朝一夕で作られるものではありません。

これはサンチャゴ日本人学校の自慢できる「伝統」といえると思います。こんな学校で学んでいる子どもたちは幸せだなと感じます。今日も、素晴らしい子どもたちが、生き生きと目を輝かせて頑張っています。

1 1 元教員の声

理解するまで一人ひとり丁寧に指導することが可能です……

私の勤務する日本の学校では、学習面や生徒指導面において「もう少し、じっくり丁寧にみてあげたい…」と思うところも、1学級の児童生徒の多さや、時間的なゆとりのなさから目をつぶるしかなく、正直なところ理想と現実との間にジレンマがありました。

しかし、サンチャゴ日本人学校は小規模な学校のため、学年間の壁や小・中学校の隔たりもなく、アットホームな雰囲気、まさに「田舎の学校」という言葉がぴったり当てはまるような学校です。

学習面では、1学年数名の児童ですから、理解するまで一人ひとり丁寧に指導することが可能です。日本のように手軽に教材・教具を手に入れることはできませんが、現地で教材に活用できるものを探したり、自作の教材・教具を開発したりして手作りの授業を実践してきました。また、地域の公共施設の見学や自然観察、現地校との交流などの体験学習も積極的に取り入れてきました。その結果、新しい発見に感動する心を持ち、物事を多面的にとらえることのできる柔軟性のある学習者が育ちます。

学校行事も、冬には雄大なアンデス山脈でスキー教室を行ったり、夏には強い日差しを避けながら、室内温水プールを利用して水泳教室を行ったり、親元を離れ1泊2日のサマーキャンプを実施したりしています。また、海外生活が長い子どもたちに日本のよき伝統文化を継承してもらおうと、七夕集会、もちつき大会、百人一首大会、ひな祭り集会などの行事も行っています。その他、日頃の学習成果を劇や合唱、合奏などで表現する学習発表会や親子が一緒に参加する大運動会など、子どもたち一人ひとりが主人公となり、活躍できる場が、年間を通して保障されているのです。

生徒指導面では、小学部高学年の児童や中学部の生徒は自然と年下の児童の面倒をみるようになります。面倒をみてもらった児童は、年齢を重ねるにつれて、してもらったことを思い出しながら、新しい転入生を迎えます。このような思いやりの感性は、心の中の動きですから、勉強や運動のように覚えるとか練習するというものではありません。いつまでこんならなくてはいけないというものでもありません。自分でも気づかないうちに、さまざまな体験や人との触れ合いを通して徐々にはぐくまれていくものだと思います。このような人間関係づくりも大きな財産となることでしょう。

以上のように、「海外でなければできない教育、海外にあるからこそできる教育」を実践し、開かれた学校・魅力ある学校・児童生徒のための学校づくりに貢献できたことを、大変うれしく思っています。

サンチャゴ日本人学校の子どもたちの明るい笑顔が、子どもたちの心の奥底に残るものが、何ものにも代えられない私たちへの報酬です。

1 2 卒業生の声

勉強だけでなく人として大切なことをたくさん学べた……

サンチャゴ日本人学校で過ごした時間は私の中で宝物となっています。

そこで出会った友達とは今でも連絡をとりあい、毎回再会できる日をととても楽しみにしています。少人数のクラスだからこそお互いをよく知り、時には衝突し、結果仲が深まっていけるのです。だから私は日本人学校でできた友達をずっと信頼しています。

また、日本人学校は緑に囲まれ、チリの自然や文化にふれることのできる行事をたくさん行います。幼い頃にそのような環境で過ごせることはたいへん貴重で、間違いなく素晴らしい思い出として残るはずです。

私は、日本人学校で勉強だけでなく人として大切なことをたくさん学べたことを誇りに思っています。そんなサンチャゴ日本人学校で、できるだけたくさんの人が信頼できる友達や先生と素晴らしい時を過ごしてくれることを願っています。

日本人学校にあるものは、人を大事にする本質を学べるということ……

デパルトの門を出るとスクールバスが停まっている。

バスに乗り込むとたくさんの友達が出迎えてくれる。

学校へ着くとやさしい先生方が笑顔で迎えてくれる。

教室へ入ると同級生たちが迎えてくれる。

休み時間になると他学年の人たちとみんなで遊ぶ。

帰りの会、みんなとのその日の別れの始まり。

帰りのバス、みんなと別れてしまう。

家に帰り、友達の家で電話をして遊べるか尋ねる。

こんなごく普通の生活が私はたまらなく好きだった。日本へ帰国してから一か月間、私はチリでの生活が忘れられず学校から帰ると泣いた。日本の学校にはなくて、日本人学校にはあるものは、恐らく人を大事にする本質を学べるということだと思う。

私たち卒業生、元在校生は今でも尚日本で交流をしている。日本の全国に散らばっている最高の仲間たちが集結し、今でも昔と変わらず接することが出来ている。日本の学校でも日本人学校の生活と同じリズムで暮らすと同じように素敵な仲間ができた。これは人を大事にする本質を学んだからこそ実現可能なことであると誇りを感じる。

私は日本人学校が大好きでたまらない、それを救うためならなんだって出来ると思っ
ている。今年から社会に出ていて、生徒数の減少により、あの大好きな学校の存続が危ないと聞いてじっとはしてられない。以前からこういった話は耳にしていた、社会に出る少し前から何か日本人学校に貢献できる事は無いか、元在校生、そのご両親、はたまた現学校長に訪ねて回った。しかし得られる答えは難しいとのお言葉だった。

そこで、私は自分が出来るであろう一つの事を見つけた。日本で自分のチリ料理屋を開くことだ。チリに住んでいたという言葉も口にしても、返ってくるのは「あれ？ 住んだのペルーだっけ？」といった様にすっかり忘れられてしまっている。まずは日本人の頭

にチリを植え付ける事が大事だと思った。もしチリ料理屋を開くことが出来れば、来店した客人にチリの素晴らしさを植え付けたいと思っている。もしその中にチリへの転勤が決まっている人、または知人が居たら日本人学校の存在をアピールしたいと思う。自らが卒業生であり、あの学校の素晴らしさを表現するにはその人の口から言葉を発した方が伝わりやすいのは明確である。

インターナショナルスクールという選択肢もある。それには英語がネイティブと同レベルに話せるというメリットがある。事実、私の姉もインター校に通い、英語を身につけた。その際私もインター校へ行くかと両親から尋ねられたが、なぜあの日本人学校から移るのか分らず断った。英語は今ではものすごい武器となり、それをもっていれば社会に出るのは容易である。英語という武器を持てば、目標はものすごい狭いものとなり、将来は予想しやすい。英語が偉大な存在であるのは当時小学生の私でもわかった、しかし日本人学校を選んだ。それは考える間もなく出た答えだった。世界で一番好きな場所から離れる必要はない。

日本人学校はたくさんの忘れられない思い出をくれた。入学式、卒業式、運動会、サマーキャンプ、ウォークラリー、アシス校体験入学、サンチャゴコレッチ体験入学、工場見学、オープンキャンパス、お別れ会、お楽しみ会、バザー、藤尾サッカー教室、アサード、サッカー交流会、お泊まり会、修学旅行、音楽祭、語学発表会、学芸会、ディエシオーチヨ、委員会、陸上記録会……、まだまだいろんな行事があった。しかし今現在、在校生数の減少により実現できなくなっている行事もある。

私は今年の3月に日本人学校を10年ぶりに訪れた。やはり生徒は少なかったが、みんな笑顔絶やさず、先生方は私がいたころの先生方と同じような優しい心をもって生徒たちと接してくれているのを身にしみて感じ、喜んだ。

是非、この日々変わらずいつまでも優しい気持ちであふれている学校へ足を運んで頂き、身をもって感じて欲しい。子様達はきっと、過去の在校生と同様に素晴らしい人間となり、素晴らしい仲間を手にすることが出来る様になると思う。

生徒と保護者と先生が一つの家族のようにして支えあい……

日本人学校のことを思い出す度、子どもたちと同じくらい、もしくはそれ以上に晴れやかな、大人たちの笑顔が浮かんできます。生徒と保護者と先生が一つの家族のようにして支えあい、ともに人生を楽しもうとする風土がそこにはありました。その世代を超えた繋がりは、帰国後、そしてこれからもずっと続いていくと確信しています。

素晴らしい友達だけでなく、尊敬すべき多くの人生の先輩に出会わせてくれた日本人学校に、心から感謝。

学年の枠を超えてみんなで遊んでいた……

私はサンチャゴ日本人学校で小学校3～5年生の3年間を過ごしました。

日本に帰ってから約11年経ち、日本人学校の生徒で良かったなと一番思うことは、たくさん友達が出来たことです。日本人学校は人数が少ないことから、学年の枠を超えて

みんなで遊んでいたことを今でも覚えています。そのためか、日本に帰ってきて中学に進学した時、学年による上下関係がきつい事に驚いた記憶がありますが、私は周囲と比べて明らかに学年に関係なく友達が多かったと思います。

また、日本人学校では先生と生徒の距離がとても近く、日本に帰ってからも何人かの先生と会い、家に泊まりに行ったり、成人してからは一緒にお酒も飲みました。今はもう当時の友達のほとんどが日本に帰ってきているので、年に数回みんなで集まって同窓会をしています。みんな、チリにいた期間がばらばらなので、集まるときにそれぞれが当時の友達に声を掛けると、実際にチリでは時期がずれていて一緒に学校生活を送っていない人に出会うこともあります。しかし、一度話すと共通の話題はたくさんあり、すぐに仲良くなれます。チリから帰ってきて10年以上経った今でも、“チリ友”が増え続けていることは、本当にすごいことだと感じています。

それから、私より少し早く日本に帰国した同級生と、中学生になってから久しぶりに再会し、その後頻りに連絡をとるようになった友人がいますが、彼とは高校時代に模試の成績を競い合っていました。大学受験では校内の成績ではなくて全国の受験生と戦わないといけないと言われていましたが、なかなか実感を持つことは難しいと思います。私の場合は、その友人が常に私より良い結果を出していたので、彼に追い付きたいという気持ちから、ライバルは全国にいるという実感を自然と持つことができ、より高い目標とモチベーションを持つことによって、希望する大学に行けたと思っています。

近年では、日本人学校よりも、インターナショナルスクールに通う傾向にあると聞きました。私はインターナショナルスクールを知らないですが、英語ができるようになるとか国際感覚を養うことは大切だと思う一方、日本人学校で築く人間関係も非常に大きなものだと思います。日本人学校の友達のほとんどはいつか日本に帰って来るために、会おうと思えばいつでも会えるところにいるので、本当に一生付き合える友達と言えます。これまで書いてきたように、チリで3年間過ごした事は、私の人生において多大な影響や刺激を与えてくれ、かけがえのないものになっていると日々実感しています。

学校行事やイベントなどで生徒達が活躍する場が多い……

自分は6月の1～19日まで、豊田の中学校に教育実習生として行きました。そこで見た現状はとても驚くことばかりです。

ここ最近ニュースゼロで特集された現在の中学校の現状と同じです。中1は小学校から上がって来たばかりなので大人しい、中2は反抗的な態度、中3は入試試験に備えて落ち着いてる、これが今の日本国内の中学校の現状です。

自分が行った美術の授業や他の先生の授業を観察して、生徒達の態度や様子を見て感じたことはこれらです。

- ・作業を続けて行う継続力と集中力が足りない。
- ・自己判断力が足りない。
- ・話をしっかり聞いて、言われたとおりに行動が出来ない。
- ・我慢することをしらない。

今の日本の教育は生徒達を甘やかすすぎだと思えます。先生方はもっと鬼になるぐらい、生徒に対して厳しく接する必要性があります。

ニュースや教育実習で感じたのは、本当に自分はサンチャゴ日本人学校で良い教育と先生方に恵まれたと思えます。日本の学校と比べて少人数だけれども、そのお陰で家庭教師に教えられているように勉強できます。日本の学校よりも勉強がよく学べられるし、日本人学校の方が勉強が進んでいることも自分の経験から分りました。

勉強面だけでなく、少人数なので先生と生徒は関わることがとても多いです。そのお陰で、親しい関係が生まれ、先生の言うことはしっかりと聞きます。指示されたことはちゃんと生徒達はやろうとします。叱られる時も先生の意見をちゃんと聞きます。少人数はデメリットが多いと思われがちですが、その特徴的な環境だからこそ出来る良い教育現場を日本人学校は持っています。

また、少人数だから、学校行事やイベントなどで生徒達が活躍する場が多いです。それによって、生徒達は行動力と自己判断力を鍛えることができます。友達同士や関わりの少なかった人とより人間関係を深めることができます。

いずれ日本に戻るのなら、日本の教育を受けさせることがベスト。将来、日本社会で困ることがないようにサンチャゴ日本人学校で勉強を受けることは凄く為になります。日本の学校では経験のできないことが多く、生徒達の想像力、好奇心、向上心を高める学校生活を過ごせることは間違いないと誓えます。

日本人学校で過ごして、現在日本に住んでいる元生徒達はあの少年の頃と変わらず今でも仲良く集まって過ごしています。それはサンチャゴ日本人学校で関わられたおかげです。

今までの学校生活で一番楽しく過ごせた……

私は小学1年から小学3年まで、3年間サンチャゴ日本人学校に通いました。

日本に帰ってから振り返ってみると、今までの学校生活で一番楽しく過ごせたのではないかと思っています。サンチャゴ日本人学校の友達とも、もう10年近く会っていませんが、今でも連絡をとりあっています。何年たっても素敵な関係を築けるのが、サンチャゴ日本人学校の良いところだと思います。

日本人学校は心を育てる所……

日本人学校とインターナショナルスクールには互いにいい所があります。

私が両方に通い感じたのは……

日本人学校は心を育てる所だと思います。

- 少人数であるため一人一人との関係が強くなり、優しい人が多い。
- 上下関係がなく、生徒・先生の仲がよい。
- 深い関係があるため、互いに思いやることができる。
- サマーキャンプ、運動会、委員会、学年内でも係があるため、責任感や実行力が身につく。

逆にインターナショナルスクールは語学、勉強面を育てる所だと思います。

- ・英語，スペイン語ができるようになる。
- ・インター校であるため，違う文化を知ることが出来る。
- ・他国から見た視点，考えを聞くことができる。
- ・プレゼンテーションや自分の意見を発言する場が多い。

私は小学校の頃日本人学校に通ったおかげで，基礎の日本語や漢字などにはさほど苦労することが今ではありません。そしてインターナショナルスクールへ通ったおかげで英語が話せるようになり，帰国子女としてのアドバンテージを得ることが出来ました。ただ英会話をする分には困りませんが，受験のための文法などは，日本人学校へ通った方がいいのかとは思いません。

どちらにもメリット・デメリットがあるので，どちらがいいとは言えません。

授業のキメが細かく，帰国後の学力の心配が少ない……

サンチャゴ日本人学校に関する考え

利点

1. 人数が少なく授業のキメが細かく，帰国後の学力の心配が少ない。
2. 親子ともに一つのコミュニティとして参加しやすくチリでの生活にリズムを持たせやすい。
3. 基本的行事は日本の小中学校にそくしているため日本の学校に近い環境を体験でき，帰国時の順応もスムーズである。
4. かといって現地の風習を完全に無視しているわけでもなくそれなりにチリの文化に触れることができ，1と同様，少人数ということもあり体験の密度が濃いとと言える。
5. そのコミュニティに入ることでそこを安全基地として新しい事にチャレンジしやすい。
6. 少人数かつ小1から中3ということもあり面倒見がよくなる。
7. 若干重複するが子供達のみならず保護者達の情報交換の場として機能。
8. 語学の習得にはある程度の時間が短期赴任家族の子供達にしてみれば劇的な変化が起こらない日本人学校の環境は理想的だと感じる。

難点

1. コミュニティが小さいため中で人間関係がこじれると居場所を失いやすい。
2. 海外にあるが海外文化を体験する機会が少ない。
3. 上級生（特に受験生）が進路などに対する危機感を持ちづらい。
4. 教育の方針上，帰国を前提としており，現地社会に適応しうる人間の育成には及ばない。
5. 日本人コミュニティだが日本から遠いため日本の時事に関心がわきにくくチリの時事にも関心がわきにくい。
6. インターや現地校に行けば日本人学校では身に付かないほどの語学が身に付く。

生徒たちが互いに助け合い，みんなの気持ちが一つになって……

日本人学校は，生徒たちが互いに助け合い，みんなの気持ちが一つになっていてとても

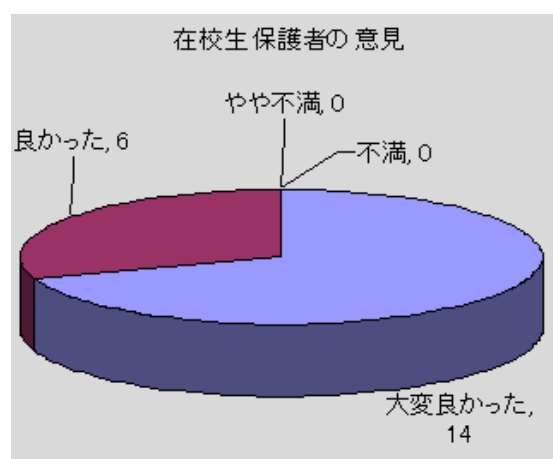
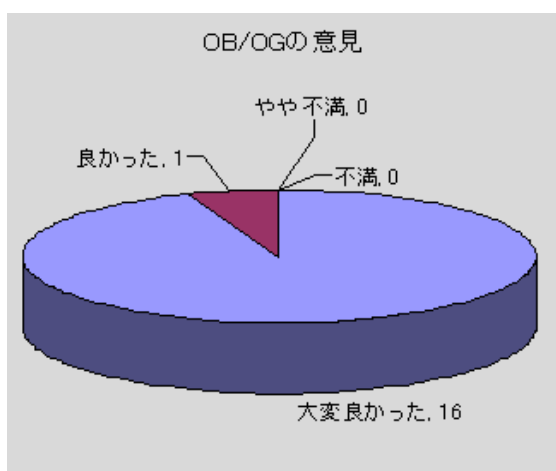
良い学校だと思います。インターナショナルスクールは、たくさんの生徒がいるためグループ活動をするときは大変です。日本人学校の生徒は、いつも持ち物を忘れず毎日ちゃんと宿題をやっていることがものすごいことだと思います。インターナショナルスクールは、誰かが必ず宿題を忘れてきます。日本人学校は生徒数が少ないため、一人一人が責任を持たなければいけません。そして、生徒たちは一生懸命いつも何かに取り組んでいます。

僕が日本人学校にいたときは、生徒、先生に信頼をもてました。インターナショナルスクールの友達は信頼できましたが、知らない生徒とはまったくコミュニケーションをしません。

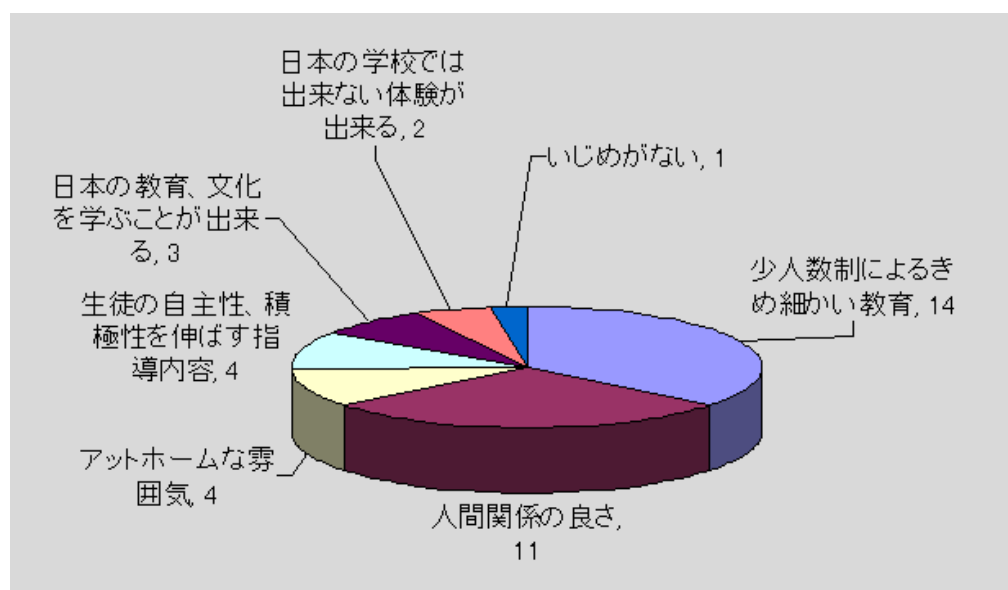
僕は、本当に日本人学校が大好きです。

1 3 保護者・元保護者・卒業生へのアンケートより

サンチャゴ日本人学校の満足度は？



その理由は？



* グラフは全て、2009年8月に保護者、元保護者、並びにOB・OGを対象に実施されたアンケートの集計結果を元に作成されています。

1 4 卒業生の進学先 (卒業生の一部)

		生まれ年	1985 年	1986 年	1987 年	1988 年	1989 年	1990 年	
大学名	私立	早稲田大学	1						
		上智大学	2			1			
		慶応大学	2	2		1		1	
		昭和薬科大学	1						
		南山大学	1		1				
		酪農大学	1						
		武蔵野美術大学	1						
		法政大学			2				
		立命館大学			1				
		日本女子大学			1				
		東京理科大学			2				
		麻布大学			1				
		青山学院大学			1				
		多摩美術大学			1				
		帝京大学			1				
		中京大学				1			
		聖和大学				1			
	名古屋芸術大学				1				
	日本大学					1			
	国立音楽大学					1			
	同志社大学					1			
	日本女子体育大学						1		
	中央大学						1		
	国・公立	京都大学	1	1			1		
		東京大学	2	1					
		東京外国語大学	1						
		東京海洋大学	1						
鹿児島大学		1							
東京農工大学		1							
九州大学				2					
京都府立大学					1				
一橋大学						1			
神戸大学								1	

